

array の使用例

黒木 玄

2054 年 1 月 6 日

$p_0 = 0.5$		n					
		10	30	100	300	1000	3000
C	1	15.3%	8.25%	4.11%	2.18%	1.1%	0.6%
	1/3	3.95%	2.24%	1.16%	0.63%	0.33%	0.18%
	1/10	0.99%	0.58%	0.3%	0.17%	0.09%	0.05%
	1/30	0.29%	0.17%	0.09%	0.05%	0.03%	0.02%

表 1: $p_0 = 0.5$ の場合のベイズファクターの閾値 C に近似対応する P 値の閾値 α_n

$p_0 = 0.1$		n					
		10	30	100	300	1000	3000
C	1	8.01%	4.45%	2.27%	1.22%	0.62%	0.34%
	1/3	2.18%	1.25%	0.66%	0.36%	0.19%	0.1%
	1/10	0.56%	0.33%	0.17%	0.1%	0.05%	0.03%
	1/30	0.17%	0.1%	0.05%	0.03%	0.02%	0.01%

表 2: $p_0 = 0.1$ の場合のベイズファクターの閾値 C に近似対応する P 値の閾値 α_n

標本サイズ n を大きくすると、ベイズファクターに関する同一の閾値 C に近似的に対応する P 値に関する閾値 α_n は小さくなり、「P 値は α_n より小さい」という基準の厳しさが増す。